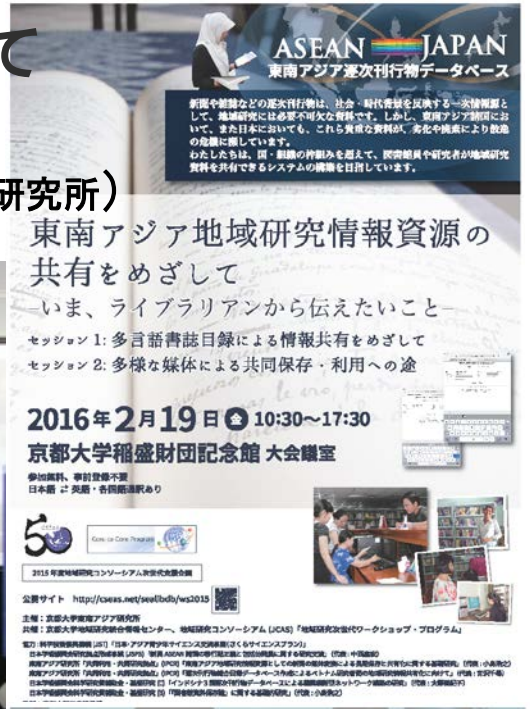
# JCAS次世代ワークショップ：東南アジア地域研究情報資源の共有をめざして
## ーいま、ライブラリアンから伝えたいことー

大野美紀子（京都大学東南アジア研究所）

「東南アジア地域研究情報資源の共有をめざして：いま、ライブラリアンから伝えたいこと」と題する国際ワークショップが開催されました。
セッション1では、「多言語書誌目録による情報共有をめざして」をテーマに、東南アジア諸国における多言語書誌目録の現状報告として、ベトナム、ミャン マー、ラオス、カンボジア、タイの図書館から報告が行われました。次いで、日本における多言語書誌目録による情報共有の取り組みとして、加藤さつき氏（東 京外国語大学附属図書館）と木谷公哉 東南アジア研究所・助教より日本の現状及び多言語データベースの取り組みが紹介されました。
セッション2では、「多様な媒体による共同保存・利用への途」をテーマに、村井友子氏（ジェトロ・アジア経済研究所図書館）、石川一樹氏（東京大学附属図 書館）、石岡克俊 慶應義塾大学大学院法務研究科・准教授より、資料の共同保存・共同利用について、課題提起・事例報告・法的観点による検討と、報告が行われました。
セッション後の質疑応答・総合討論では、原正一郎 地域研究統合情報センター・センター長、上田修一 立教大学文学部特任教授、渡邉斉志（国立国会図書館アジア情報課）、山本和雄（横浜国立大学附属図書館）各氏のコメントをもとに、閉会時間を超過して活発 な論議が交わされました。最後に、柴山守 ASEAN拠点・所長よりASEAN諸国学術情報基盤環境ボトムアップとそれに対する日本の貢献の必要性がアピールされ、ワークショップは延べ参加者 110名（うち東南アジア諸国から18名）と盛況のうちに閉会しました。